

Cooperation

連携・協力・協調性

教務部

高校入学おめでとうございます

新型コロナウイルスの影響により、様々な行事が中止・縮小されていますが、いよいよ富良野緑峰高校での3年間の高校生活がスタートします。生徒自身はもとより、保護者の皆さんもこれから始まる高校生活へ大きな期待と不安があると思います。高校生活というのは社会に出るための重要な準備期間でもあります。緑峰高校での3年間でいろいろな事に挑戦して、大きく成長してくれるものと期待しています。そのためには、本人の頑張りはもちろんですが、教職員と保護者が連携し合ってサポートしていくことが重要と考えております。「Cooperation＝連携・協力・協調性」です。3年間、よろしくお願いいたします。

中学校との大きな違い

1 生活面が大きく変わります

特に中学時代と大きく変わるのは、通学時間です。自宅からの距離も遠くなり、JR等を利用する場合は、自宅を出る時間も大幅に早くなります。この休みで生活習慣も乱れている部分もあり、なかなか自分では起きられないという場合も多いかと思いますが、遅刻をしないように、ご家庭でも声かけをお願いします。

部活動は、4月中は体験期間ですが、5月からは本格的にスタートする予定です。また、緑峰高校は農業・工業・商業の学科集合型専門高校ですので、科目数も増え、学科の行事も盛りだくさんです。高校生活を充実させるためには、何事にも自分から積極的にチャレンジしていくことが必要であり、それが3年後の進路活動での自己アピールにも繋がっていきます。

定期考査は年4回

- 1学期期末：6月21日(火)～6月24日(金)
2学期中間：9月28日(水)～9月30日(金)
2学期期末：11月21日(月)～11月25日(金)
3学期期末：1月25日(水)～1月27日(金)
2月14日(火)～2月17日(金)

※二重下線部分は3年生が対象

試験1週間前から部活動・アルバイトは停止です。

2 進級や卒業に条件が課されます

高校は、自分で学習を頑張って、進級や卒業のための基準をクリアしなくてはなりません。評価は観点別に評価されるため、定期考査はもちろんのこと、普段の授業や実習への取り組み状況、課題の提出も評価の基準となります。

1学期・2学期の評価で「1」がついてしまった場合は、保護者の方に来校して頂き、本人同席の上、教科担当教諭から学習状況についてのお話しを受けなくてはなりません。夏休み中・冬休み中に一定期間の補習も受けることとなります。

また、高校は出席日数が進級や卒業に関係してきます。基本的には8割以上の出席をしていれば問題はありますが、2割を超える欠課は進級や卒業に関わってきますので注意が必要です。

授業時数×10%の欠課：本人&保護者へ連絡
×15%の欠課：保護者来校(本人同席)

教科書等はすべて、
持ち帰りの指導をしています。

本校は定期試験だけではなく、資格取得に向けた検定の勉強も必要となります。日頃から少しずつでも勉強をする習慣を身に付けさせたいと考えております。

【令和4年度入学生から評価の方法が変わります】

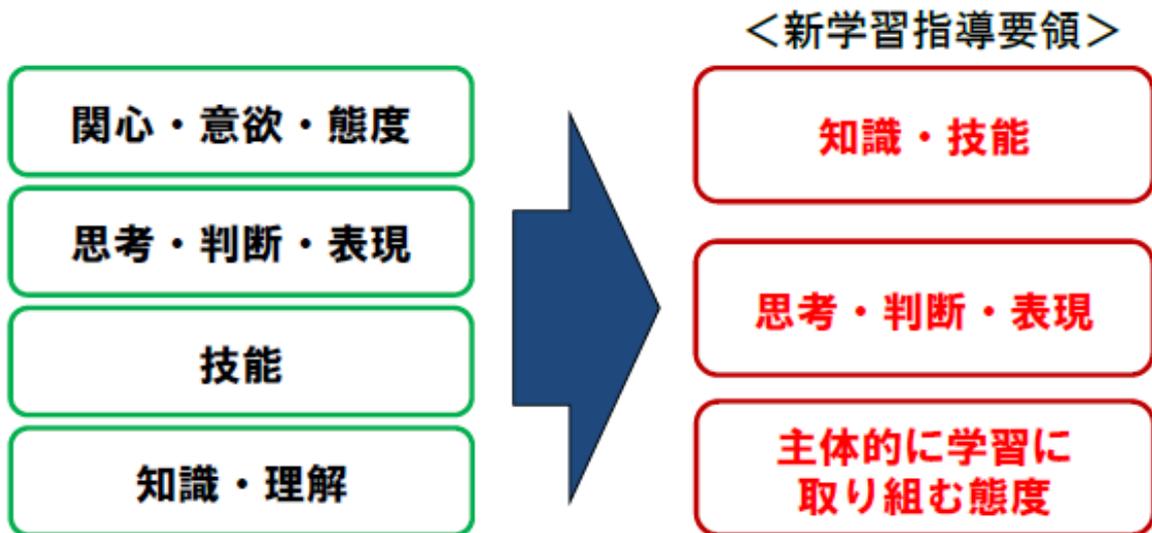
～新学習指導要領に対応した学習評価について～

R4 入学生から評価方法が4観点から3観点に変更されます。指導要録の様式も変更になります。

観点別学習状況の評価の観点の整理

2. 学習評価の基本構造

資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理。



※【技能】については、農業・工業・商業の専門教科では【技術】となります。

★「知識・技能」の評価方法

従前の評価観点である「知識・理解」「技能」においても重視してきた部分となります。具体的な評価方法として、例えばペーパーテストにおいて、**知識**の習得や理解を問う問題知識の**概念的な理解**を問う問題とのバランスに配慮するなどの工夫改善を図る等が考えられます。また、生徒が**文章による説明**をしたり、各教科の内容の特質に応じて、**観察・実験**をしたり、**式やグラフで表現**したりするなど実際に**知識や技能（技術）を用いる場面を設ける**など、多様な方法を適切に取り入れていくことなども考えられます。

★「思考・判断・表現」の評価方法

従前の評価観点である「思考・判断・表現」においても重視してきた部分となります。具体的な評価方法としては、**ペーパーテストのみならず、論述やレポートの作成、発表、グループでの話し合い、作品制作や表現などの多様な活動**を取り入れたりと、それらを集めたポートフォリオを活用したりするなどの評価方法を工夫することが考えられます。

★「主体的に学習に取り組む態度」の評価方法

具体的な評価方法としては、**ノートやレポートなどにおける記述、授業中の発言**、教師による**行動観察や、生徒による自己評価や相互評価などの状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いること**などが考えられます。その際、各教科等の特質に応じて、**生徒の発達段階や、一人一人の個性を十分に考慮**しながら、「知識・技能」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で、評価を行う必要があります。

各教科・科目の評価についても、観点別学習状況の評価と評定の両方について、目標に準拠した評価として実施する。

観点別学習状況の評価の更なる充実とその質を高めることが必要。



指導要録の参考様式にも各教科・科目の観点別学習状況を記載する欄を設置。

学 校 名		学 年 級		学 期		学 年		
学 校 名		学 年 級		学 期		学 年		
教科等 科目等	科目等	第1学年		第2学年		第3学年		備 考
		学習状況	評定	学習状況	評定	学習状況	評定	
国語	現代の国語							
国語	読書							
国語	歴史							
国語	公民							
国語	数学							
国語	理科							
国語	体育							
国語	音楽							
国語	美術							
国語	外国語							
国語	総合							
国語	道徳							

第1学年			
学習状況	観点別	評定	修得単位数
AAA		5	2

★特別活動の評価★

各学校が設定した観点を記入した上で、活動・学校行事ごとに、評価の観点に照らして十分満足できる活動の状況にあると判断される場合に、○印を記入することになります。

評価の観点については、特別活動の特質と学校の創意工夫を活かすということから、設置者ではなく、各学校が評価の観点を定めるということです。

特別活動の記録				
内 容	観 点 / 学 年	1	2	3
ホームルーム活動	例) ・よりよい生活や社会を構築するための知識・技能 ・集団や社会の形成者としての思考・判断・表現 ・主体的に生活や社会、人間関係をよりよく構築使用とする態度	○		○
生徒会活動			○	
学校行事			○	○

○印を付けた具体的な活動の状況等については、「総合所見及び指導上参考となる諸事項」の欄に簡潔に記述することで、評価の根拠を記録に残すことができます。

★本校における3観点評価方法について★

- ① 評価するタイミングはシラバス（授業計画）に沿って、単元毎が望ましいが、各教科の特性に応じ、こまめに評価する。
- ② 単元毎に3観点をそれぞれABCで評価する。その規準はシラバスに記載する。
 【3観点の達成率】 A=十分に満足できると判断されるもの
 B=おおむね満足できると判断されるもの
 C=努力を要すると判断されるもの
- ③ 学期毎に単元毎の3観点評価資料を総括(集計)し、その組み合わせにより学校として統一した評価を5段階評価換算表を用いて算出する。

<5段階評価換算表>

組み合わせ	評価
AAA	「5」
AAB	「5」または「4」
ABB・AAC	「4」または「3」
ABC・BBB	「3」
BBC・ACC	「3」または「2」
BCC	「2」または「1」
CCC	「1」

例	知	思	主	評価
生徒1	A	A	A	5
生徒2	B	A	A	4
生徒3	B	A	B	3
生徒4	A	B	B	4
生徒5	C	B	B	3
生徒6	B	B	C	2
生徒7	C	C	A	2

知)
 知識・技能(技術)
 思)
 思考・判断・表現
 主)
 主体的に学習に取り組む態度

- ④ シラバス上の3観点での比重は同等（1/3）とする。
 ただし、観点内での評価資料や比重の違い、パーセンテージ等は各教科で設定する。

(例)	評価資料→ 比 重↓	定期考査	単元テスト	課題提出等	授業態度 発問評価 ノート確認等
知識 技能 (技術)	1/3 (定テ:60%) (小テ:40%)	(60点満点) 得点率 ×60%×1/3 【20.0点満点】	(36点満点) 得点率 ×40%×1/3 【13.3点満点】	—	—
思考 判断 表現	1/3 (定テ:40%) (小テ:30%) (課題:30%)	(40点満点) 得点率 ×40%×1/3 【13.3点満点】	(24点満点) 得点率 ×30%×1/3 【10.0点満点】	(3点満点) 得点率 ×30%×1/3 【10.0点満点】	
主体的に 学習に取 り組む態度	1/3 (課題:50%) (態度:50%)	—	—	(3点満点) 得点率 ×50%×1/3 【16.7点満点】	(3点満点) 得点率 ×50%×1/3 【16.7点満点】
	100点	33.3点	23.3点	26.7点	16.7点

※定期考査（100点満点）の配点比率＝知・技（60%＝60点）、思・判・表（40%＝40点）
 単元テスト（60点満点）の配点比率＝知・技（60%＝36点）、思・判・表（40%＝24点）

※比重欄のカッコは観点内比率

※得点率＝（得点÷何点満点か？）